

## はじめに

本テキストは、皆さんが無理なく基本をマスターし、かつ応用力を養成できるように編集してあります。

文章分野ごとの単元構成です。単元ごとに、その分野の主な論点を基  
本事項にまとめました。例題・演習問題A・演習問題Bと進むにつれて、  
その分野について深く読み込んでいきます。また、内容理解の助けとな  
るように、演習問題Aは本冊に、例題・演習問題Bは解説に、内容を図  
式化してまとめました。

巻末には漢字トレーニングを設けました。大学入試でも漢字問題が出  
題されるので、じっくり取り組んでください。

本書が有意義に活用されることを祈っています。

## 構成と活用法

本テキストは、次のように構成されています。

▼例題 その分野の典型的な内容の、短い文章を扱います。論点  
をきちんと読み取りましょう。

### ▼演習問題A・演習問題B

演習問題A・演習問題Bでは、文章が徐々に深く長  
くなっていきます。演習問題Bでは、字数の多い記述問題  
も出題しています。論点をきちんと読み取るとともに、  
正解にたどり着くように正しく考えましょう。

## ◆ もくじ — 大学受験α 現代文

1	現代文の読解(1)——人間・文化……………	2
2	現代文の読解(2)——言語・身体論……………	10
3	現代文の読解(3)——文学・芸術論……………	18
4	現代文の読解(4)——近代・現代論……………	26
	漢字トレーニング……………	34

# 第1講

## 現代文の読解(1)——人間・文化論

### 例題

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

Sample

25 20 15 10 5

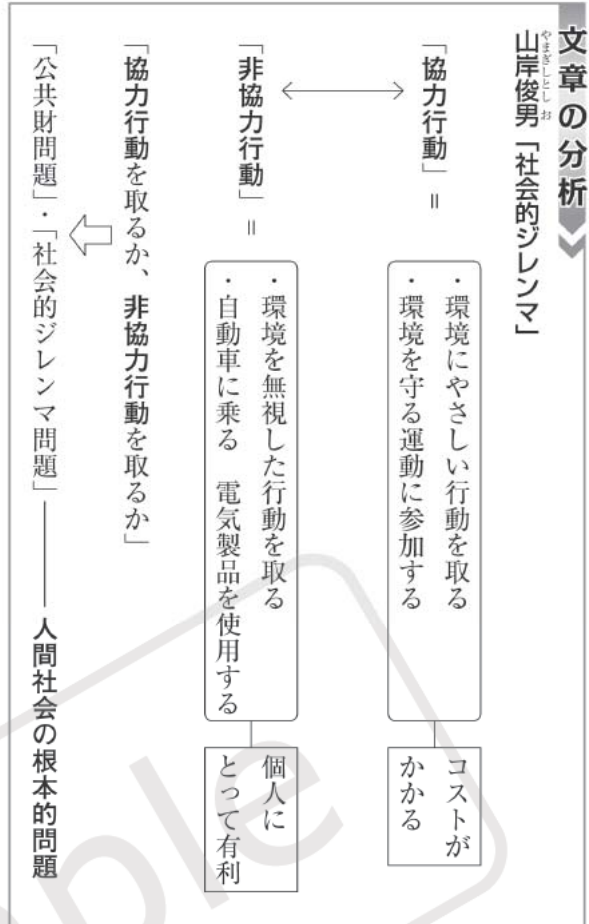
### POINT

- 1 「文化の多様性」をいま尊重せよ、と願う。
- 2 沖縄のサミット会議では「文化の多様性」の擁護が決議文に盛り込まれ、ユネスコも「文化の多様性」を最大目標の一つに掲げている。
- 3 今日、「文化の多様性」への脅威は二つの方向から来る。一つは宗教的過激主義による文化と人間の破壊である。  
▽「文化の多様性」は「自文化・自民族中心主義」や「全体主義的イデオロギー」と対比的関係にあることをつかもう。
- 4 いま一つの脅威は、「ファストフード化」の波であり、これは文化の簡易化・単純化と画一化のことを指す。  
▽「ファストフード化」は「文化の画一化」を進展させる点で問題があることを読み取ろう。
- 5 グローバル化の下に文化の画一化が進展することは、近代合理主義の極北であり、グローバル化の激風は、人間の生活文化をマニュアル化し人間存在そのものさえ機械化する。
- 6 偏狭な X 主義、非人間的な文化 Y 主義の先にあるのは限りなく深い虚無の世界である。



文章の分析

山岸俊男「社会的ジレンマ」



次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

40 35 30 25 20 15

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
 実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

(山岸俊男「社会的ジレンマ」による)

問一

「A」～「C」に入る言葉として適切なものを次のA～Eからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ。

A 例えば    イ つまり    ウ あるいは    エ ところが

A 「    」    B 「    」    C 「    」

問二

線①「皆が自分と同じように行動すると話とは全く変わってきます」とあるが、どういうことか。最も適切なものを次のA～Eから一つ選び、記号で答えよ。

A 自分一人だけでも協力を続けていけば、やがては環境問題も解決するということ。

イ 環境保護運動に参加すると、他の人も自分と同じように環境保護運動に参加するようになるということ。

ウ 一人が非協力的行動を取ると、全員が同じように非協力的行動

45

を取るようになってしまうということ。  
 E 全員が環境のことを考え協力的行動を取れば、環境破壊の進行を防ぐことができ、個人が受ける被害も少なくなるということ。

「    」

問三

線②「この種の公共財問題は数え切れないほどあります」とあるが、「公共財問題」とはどのような「問題」か。五十文字以内で説明せよ。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

55

50

問四

線③「現代の社会問題と言われているものはほとんどが、何らかのかたちで『公共財問題』ないし『社会的ジレンマ問題』の側面を含んでいる」とあるが、その理由として最も適切なものを、次のA～Eから一つ選び、記号で答えよ。

A 現代は、余分な費用やエネルギーをかけて、環境にやさしい商品を生産するようになったから。

イ 人間が社会生活を送るうえで、社会全体の利益を取るか、個人の利益を取るかの葛藤は、絶えず続いていくものだから。

ウ 人間は昔から誰もが、個人の利益よりも社会の利益を優先しなければならぬという考えを持っているから。

E 現代人は、環境破壊のコストを全員で分担して、一人当たりの被害の大きさを少しでも軽減しようとしているから。

「    」

60

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。

演

習

問

題

IB

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30

(富山太佳夫「文化と精読 新しい文学入門」による)



(注) カルチュラル・スタディーズ：かつては研究の対象とされていなかっただけで、大衆文化をも視野に入れ、従来の文化概念を問い直しつつ発達した人文・社会科学分野における新しい研究方法。

対抗文化：一九六〇年代にアメリカを中心に起こった反体制的・反主流の政治文化。

問一 a } e に入る語として最も適切なものを次のア～エからそれぞれ一つずつ選び、記号で答えよ（a は二箇所ある）。

- ア むしろ      イ しかも      ウ たとえば      エ しかし

- a (      )      b (      )      c (      )      d (      )

問二 線①に見られるように、筆者は文学と文化を「敵対関係」ととらえるものとしてハロルド・ブルームの論を挙げている。筆者はブルームに対してどのような考えを持っているか。その説明として最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア カルチュラル・スタディーズを否定し、文化をエリートの教養に限定するブルームに対して、筆者はむしろ民衆文化こそ文化だと考えている。

イ カルチュラル・スタディーズによる民衆文化の分析を認めないブルームに対して、筆者はブルームが伝統的権威に固執していると考えている。

ウ カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると主張するブルームに対して、筆者はそのような状況にはならないだろうと考えている。

エ カルチュラル・スタディーズが英文科にとってかわると憂慮するブルームに対して、筆者は極論ではあるが、おおむね正しいと考えている。

問三 線②「この人類学者は、バフチンの思想を引用しながら、その文化概念を展開する」とあるが、バフチンの思想を介してクリフォードが考える「文化」の説明として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 文化は上位文化と下位文化で構成され、上位文化はモノローグ的権力によって下位文化を支配する。

イ 文化は固定的なエリート階級の文化と確固とした民衆文化で構成され、完全に二分化される。

ウ 文化は多様性を持つ複数のグループで構成され、それらがぶつかり合

いながら作られる。

エ 文化は複数の多様なグループが、お互いに協調し合うことによって創

問四 線③「特定の生活のあり方」の説明として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 特定の階級や民族や国家の制約を常にうけているという生活のあり方。

イ 特定の意味や価値観が日常の行動にも現れてくるという生活のあり方。

ウ 特定の社会制度によって常に制約をうけているという生活のあり方。

エ 特定の意味や価値観が芸術や学問に現れてくるという生活のあり方。

問五 線④「純粋な民衆文化など存在しないし、エリート文化なるものが

質の高いエッセンスのみからなるなどと考えるのは茶番にすぎない」とあるが、なぜ筆者はそのように考えるのか。その理由を、「民衆文化であり、エリート文化であり、」に続く形で、六十字以内（句読点等の符号も字数に数える）で説明せよ。

民衆文化であり、エリート文化であり、


問六 本文の主旨に合致する説明として、最も適切なものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

ア 文化の分析とは、エリート階級の教養を対象とし、その社会の人々の行動や生活の奥にある意味や価値観を分析することである。

イ 文化の分析とは、一般の人々の日常を対象とし、彼らの行動や生活の奥にある意味や価値観を明らかにすることである。

ウ 文化の分析とは、複数の国々の多様な文化を比較検討し、それぞれの文化固有の意義や価値観を究明することである。

エ 文化の分析とは、さまざまな対象分野に関して、それぞれの事象に内在している意味や価値観を析出するものである。

② 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

演

習

問

題

IB

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

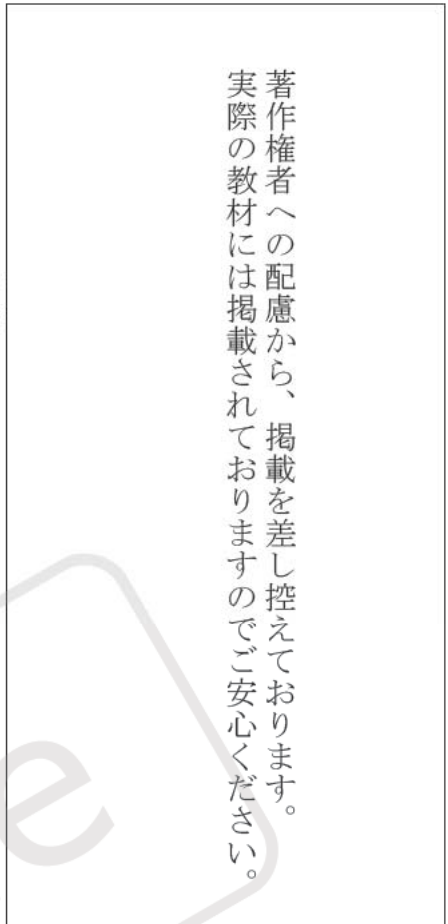
25 20 15 10 5

著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。  
実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。

55 50 45 40 35 30



著作権者への配慮から、掲載を差し控えております。実際の教材には掲載されておりますのでご安心ください。



65

(注) 内山節「日本人はなぜキツネにだまされなくなったのか」による

(注) シュテイルナー：ドイツの哲学者。(一八〇六一—一八五六)

ヘス：ドイツの哲学者。(一八二一—一八七五)

トクヴィル：フランスの政治思想家。(一八〇五—一八五九)

マルク・プロック：フランスの歴史学者。(一八八六一—一九四四)

問三 ―― 線③「人々の気持ちのなかに違う思いが生じてくる」とあるが、どのような「思い」が生じてきたのか。六十文字以内で説明せよ。


問四 ―― 線④「歴史学の転換をもたらした」とあるが、「歴史学の転換」とはどのようなことか。三十文字以内で説明せよ。


問一 ―― 線①「それ」は何を指しているか。十五文字以内で書け。


問二 ―― 線②「昔の歴史学の中心は『制度史』であった」とあるが、その理由をまとめた次の文の A～D に入る言葉を、それぞれ本文中から指定字数で抜き出せ。

・資料である A(二字)が豊富にあり、人々が制度の B(三字)を模索する中で、制度の変遷は C(三字)なものであり、制度史の中にこそ歴史の D(二字)があると考えていたから。


問五 本文の内容に合うものを次のア～エから一つ選び、記号で答えよ。

- ア フランス革命後、フランス社会は自由、平等、友愛という理念を掲げ、市民は不自由な労働者から自由な市民へと転じた。
- イ 幕末から明治にかけて、台頭してきた町人たちの間で、天皇制、選挙制度など制度のあり方をめぐる論議が盛んに行われた。
- ウ 人間は、過去を考察することによって、それぞれの時代に発生した問題の解決策を見出そうと努力してきた。
- エ 歴史学では、人間がキツネにだまされるという話は歴史とは認めず、その話に興味を示す民俗学を学問とは認めていなかった。

「        」